

2019年3月22日
京都工芸繊維大学

2021年度大学入学者選抜について（予告）【第2報】

本学では、昨年12月10日の「平成33年度（2021年度）大学入学者選抜について」の予告公表のとおり、大学入試センターが大学入試英語成績提供システムへの参加要件を満たしていると確認した資格・検定試験（英語認定試験）の活用、国語及び数学の記述式問題の取扱い及び学力の3要素を多面的・総合的に評価する選抜方法等について慎重に検討を重ねてまいりました。

このたび、2021年度大学入学者選抜について、以下のとおり決定しましたのでお知らせします。

1. 一般選抜における英語について

一般選抜（前期日程・後期日程）では、大学入学共通テストにおいて実施される英語試験を課します。

一般選抜（前期日程・後期日程）への英語認定試験の活用については、すでに大学院入試、3年次編入学試験、私費外国人留学生入試に英語の外部試験を導入している大学として、慎重に検討を重ねてまいりました。

本学では、一般入試以外の入試で英語の外部試験を活用する場合、1つの試験に限定し、約2年間のスコアを有効とし、かつ公開テストに限ることで一定の公正性と公平性を担保しております。

しかしながら、一般選抜への英語認定試験の活用については、現時点で、複数の試験のスコアとCEFRとの対照や受験体制の面で十分な公正性と公平性が担保されていることが確認できないため、2021年度の一般選抜への活用は見送らざるをえないという結論になりました。

本学では、以前の予告公表のとおり、入学後に英語4技能（聞く・話す・読む・書く）の能力を最大限に伸ばす「英語鍛え上げプログラム」を運営しており、成果も上げています。また、CBT方式のスピーキングテストを大学独自で開発し、学部の必修科目の学期末試験として用いるとともに、ダビンチ（AO）入試【グローバル】の選考にも活用しています。今後も引き続き英語4技能を統合的に伸ばす教育に取り組んでまいります。

なお、2022年度入試以降の一般選抜については、今後の状況を注視しながら、検討をさらに重ねていくこととし、決定次第速やかに公表いたします。

2. 一般選抜における記述式問題

一般選抜（前期日程・後期日程）においては、大学入学共通テストにおける国語及び数学の記述式問題を課します。

ただし、国語の記述式問題の段階別評価を点数化して合否判定に用いることはしません。大学入学共通テストと個別学力検査の合計点で同点となった場合に、活用します。

なお、数学の記述式問題は、正誤のみの判定であり、配点もなされることから、従来のマークシート式と同様に取り扱います。

3. 一般選抜における「学力の3要素」の評価方法

本学のアドミッションポリシーに基づき、「学力の3要素」のうち、「基礎的・基本的な知識・技能」及び「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探求し、成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」は、大学入学共通テスト及び一般選抜における個別学力検査において評価します。

また、「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」については、大学入学共通テストと個別学力検査の合計点で同点となった場合に、調査書を活用します。

本学では従来、個人の資質・能力を総合的・多面的に評価する自己推薦型のダビンチ（AO）入試において、様々なプログラム及び調査書、活動の記録、志望理由書の出願書類から学習意欲、協調性、積極性等を評価し、21世紀の科学技術創造の基盤を担おうとする意欲のある人、チャレンジ精神旺盛で行動力のある人等多様な人材を選抜しており、今後もその方針を維持・発展させてまいります。